

内科

糖尿病代謝・内分泌内科



診療科WEB



外来担当医表

TEL 022-717-7779

科長 片桐 秀樹

2023年4月に糖尿病代謝科と内分泌内科が統合しました。これにより、1型・2型をはじめ多岐にわたる糖尿病全般、肥満症や脂質異常症、低血糖症などの代謝疾患、副腎疾患・下垂体疾患・甲状腺や副甲状腺疾患などの内分泌疾患全般の診療を担当します。

種々の病態の糖尿病に対し、さまざまな作用機序の内服薬やインスリン・インクレチンの注射製剤など、無数の組み合わせの中から個々の患者さんのその時々々の病状に最も適した治療法を選択しています。また、持続血糖測定システム(CGMS)を活用し、ポンプを用いたインスリン注入療法(CSII)やセンサー併用型インスリンポンプ療法(SAP)の症例も豊富です。糖尿病療養指導士や管理栄養士とともにチーム医療で全人的な診療に取り組んでいます。

また、内分泌疾患は、原発性アルドステロン症150例、褐色細胞腫約20例、クッシング症候群30例、視床下部・下垂体疾患約50例、原発性副甲状腺機能亢進症約30例などの年間入院数を診療し、全国から多くの患者さんのご紹介をいただいています。各種負荷試験や画像診断、副腎静脈サンプリング検査などにより、内分泌疾患や二次性高血圧症に丁寧で確実な診療を進めています。

主な対象疾患

1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、ステロイド糖尿病、内分泌異常に伴う糖尿病、膵性糖尿病、ミトコンドリア糖尿病 など糖尿病全般／肥満症、家族性高コレステロール血症、低血糖症など代謝疾患／原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫などの内分泌性高血圧症及び副腎疾患／クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症、中枢性尿崩症などの下垂体疾患／原発性副甲状腺機能亢進症、内分泌性骨粗鬆症 などのカルシウム・骨代謝疾患